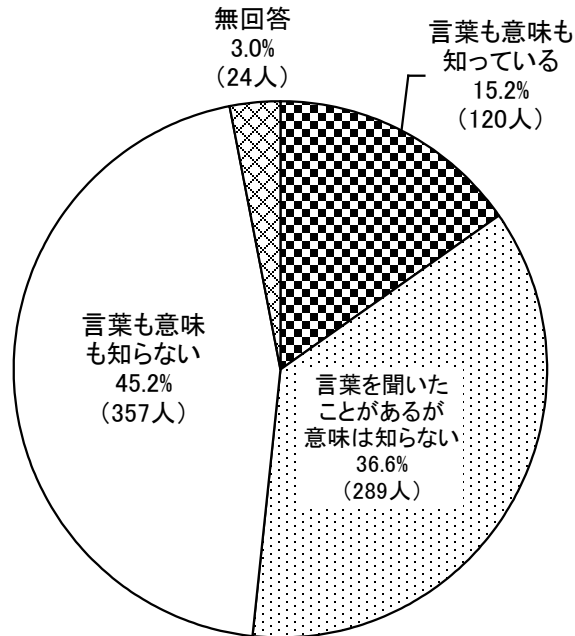


## 5 生物多様性について

### (1) 「生物多様性」という言葉の認知状況

問22 「生物多様性」という言葉を知っていますか。  
あてはまるものに1つ○をつけてください。

全体  
(n=790)

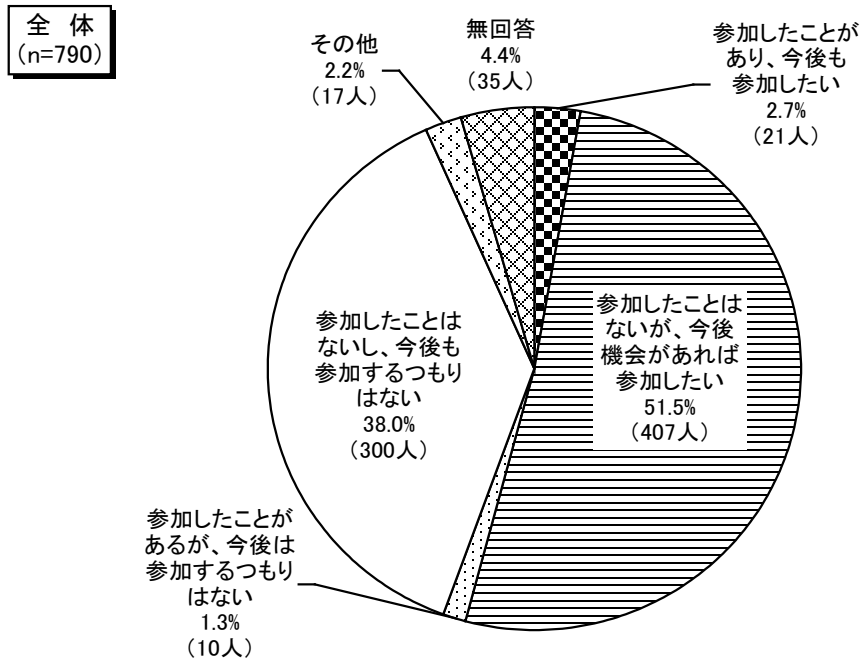


「生物多様性」という「言葉も意味も知っている」人は15.2%で、1割強となっている。これに「言葉を聞いたことがあるが、意味は知らない」（36.6%）を合わせた『言葉は知っている』計の割合は51.8%となっている。

一方、「言葉も意味も知らない」は45.2%となっている。

## (2) 地域の自然を守るための活動、イベントへの参加の有無

問23 生物多様性の保全につながる地域の自然を守るための市民参加型の活動やイベントに参加したことがありますか。  
あてはまるものに1つ○をつけてください。

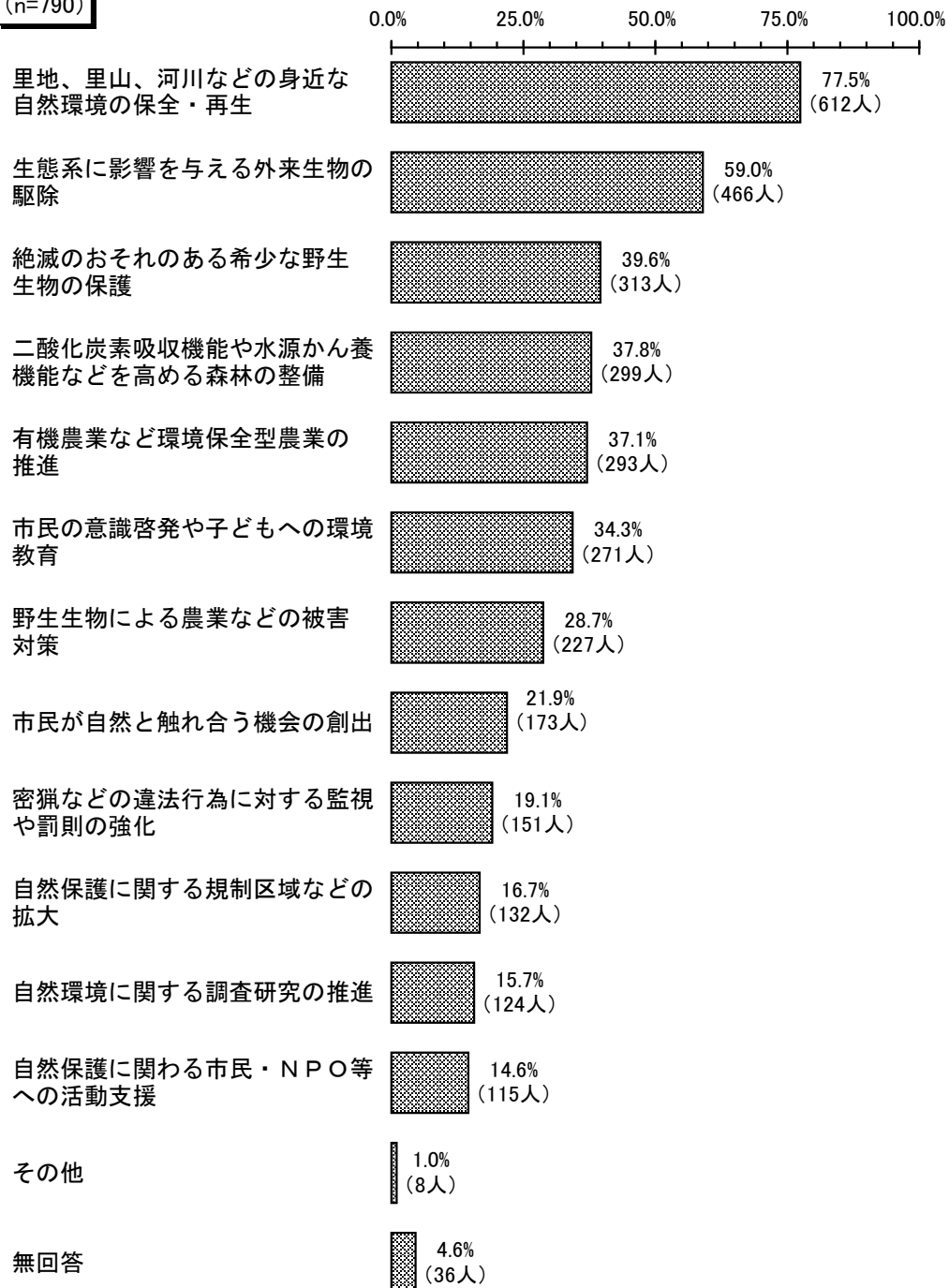


地域の自然を守るための活動やイベントに「参加したことがあるが、今後も参加したい」が2.7%、「参加したことはないが、今後機会があれば参加したい」が51.5%、「参加したことがあるが、今後は参加するつもりはない」が1.3%、「参加したことはないし、今後も参加するつもりはない」が38.0%となっている。

### (3) 生物多様性の保全や恵みを得るために必要なこと

問24 生物多様性を将来にわたって保全し、私たちがその恵みを持続的に得ていくためには、何が必要だと思いますか。  
 あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

全体  
 (n=790)



生物多様性の保全や恵みを得るために必要なことは、「里地、里山、河川などの身近な自然環境の保全・再生」（77.5%）が最も多く8割弱となっている。次いで「生態系に影響を与える外来生物の駆除」（59.0%）が6割弱で続き、以下「絶滅のおそれのある希少な野生生物の保護」（39.6%）、「二酸化炭素吸収機能や水源かん養機能などを高める森林の整備」（37.8%）、「有機農業など環境保全型農業の推進」（37.1%）、「市民の意識啓発や子どもへの環境教育」（34.3%）、「野生生物による農業などの被害対策」（28.7%）、「市民が自然と触れ合う機会の創出」（21.9%）などとなっている。